

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

臨床検査学科

授業科目 (科目ID)	心理学  22m101	担当教員  (実務経験)	大野 史博  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	8	時間数	16時間
授業目的	教養としての心理学の基礎について学ぶ。将来医療現場で遭遇すると思われるさまざまな状況について考察・研修するための思考法を学ぶ。				
到達目標	心理学の基礎的な理論を幅広く学び、それらが臨床的技法の基盤になっていることを説明できる。将来の対人援助職従事者として、その基盤となる自己理解や他者理解について学習内容を通じて説明できる。				
テキスト・参考図書等	・プリント				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	①最高点を100点換算した得点を科目成績全体70%の評価点とする。 ②ワークシートの提出を科目成績全体30%の評価点とする。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	30%			
	その他	%			
履修上の留意事項	①配付するプリントを中心とした授業を行う。 ②学んだ内容について、理解促進のため各自の日常生活やこれまでの経験と関連付けながら復習すること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	心理学とは	オリエンテーション、ウォーミングアップ、心理学とはどういう学問か？		
	2	ストレスとは	不調のサインに気づこう		
	3	臨床心理学	うつや不安、発達障害の理解を深める		
	4	性格の心理学	性格の理論を学び、自分の性格パターンを知ろう		
	5	コミュニケーションの心理学	対人援助のスキルを身に着ける、動機付け面接		
	6	感情の心理学	怒りや不安の感情について知ろう		
	7	行動の心理学	学習理論や行動分析について学ぶ、認知行動療法		
	8	思考の心理学	物事の捉え方や考え方について知る、ACTやマインドフルネス		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

臨床検査学科

授業科目 (科目ID)	国語表現法  22m102	担当教員  (実務経験)	横山 昌明  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	8	時間数	16時間
授業目的	学生・社会人として必要な「国語力」を身に付け、適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝える力を高めるとともに、思考力や判断力、想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を身につける。				
到達目標	①漢字や語彙の学習を習得する。②要約の方法を理解し、それを応用しながら、レポートや小論文の実践的な書き方ができる。 ③レポートや小論文作成の手順と方法が使用できる。				
テキスト・ 参考図書等	・キャリアアップ国語表現法23訂版(嵯峨野書院)				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50%	①最高点を100点換算した得点を科目成績全体50%の評価点とする ②レポート・論文30%を科目成績全体30%の評価点とする。 ③プリント提出(レポート・論文以外)などを科目成績全体10%の評価点とする。 ④その他(取組姿勢など)を平常点として科目成績全体10%の評価点とする。		
	レポート	30%			
	小テスト	%			
	提出物	10%			
	その他	10%			
履修上の 留意事項	①授業は、講義を中心に演習・ペアワークなども取り入れた形で行う。また、テキストに加えて補足プリントを適宜用いて進める。場合によってはプリントの提出を求める。②授業や課題には積極的に取り組み、主体的・能動的に学ぶこと。授業に対する関心、意欲態度は重要視する。私語は厳に慎むこと。③レポート・論文などの課題は必ず仕上げて提出すること。なお、評価に値しない内容のものは再提出させる。剽窃(コピペを含む)は絶対にしないこと。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス 「コミュニケーションと国語表現との関係」(総論)	◇授業の進め方・評価についての説明 ◇学生・社会人に必要な「国語表現」とは ◇論理的に読み・考え・表現する必要性		
	2	文字表現の基礎①	◇漢字の習得方法◇熟語の構造◇仮名遣いや送り仮名 ◇四字熟語◇音訓と熟語		
	3	文章表現の基礎②	◇文の仕組と文章構成◇文章の要約と理解◇原稿用紙の使い方		
	4	文章表現の基礎③	◇表記の仕方◇語句の用法と文章の区切り方		
	5	文章作成の基礎	◇文章の「型」の理解◇文章の構成方法◇「構成ノート」作成		
	6	文章作成の方法と実践	◇要約の方法◇課題分から問いを見つける◇課題文型レポートの実際◇データ型レポートの実際		
	7	レポート・論文の作法	◇題名の付け方◇定義の仕方◇引用の仕方◇効果的な段落の方法◇事実と意見の区別◇わかりやすい文章を書くために		
	8	まとめ・国語表現の応用と活用	◇就職面接の形式、面接の流れ、話し方、面接の作戦		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

臨床検査学科

授業科目 (科目ID)	社会学  22m103		担当教員  (実務経験)	中島 克典  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 病院医事業務に従事し、 当該科目の教育を行う	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	8	時間数 16時間
授業目的	①医療が直面する様々な社会的課題について学び、臨床検査技師に求められる機能・役割を考えていく。 ②医療を取り巻く環境への考え方、医療従事者として取るべき行動について理解を深める。				
到達目標	①医療を取り巻く諸課題の問題点を把握・分析し医療従事者としての関わりについて説明できる。 ②他の医療従事者等とのコミュニケーションを円滑に進めることのできる手法を発揮できる。				
テキスト・ 参考図書等	・テキストとして必要に応じてPDF教材を配付 ・参考図書:医療系学生のための社会保障制度と医療経済 概論 講義(購入は任意)				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	40%	①最高点を100点換算した得点を科目成績全体40%の評価点とする。 ②レポート(2題)の点数を科目成績全体30%の評価点とする。 ③小テスト、提出物、その他(演習への参加姿勢)をそれぞれ科目成績全体10%の評価点とする。		
	レポート	30%			
	小テスト	10%			
	提出物	10%			
	その他	10%			
履修上の 留意事項	① パワーポイントを用いた講義形式の授業と講義資料(PDF)をclassroomに配付し演習を行う。 ② 健康医療関係の報道等に日ごろから興味を持つこと。 ③ 参考資料を配付して社会的課題、問題点の把握のためレポート作成を行う。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題		履修内容	
	1	オリエンテーション		なぜ、社会を学ぶのか。医療とはなにか。医師業務のタスクシフトの影響と求められる機能、コミュニケーション技術	
	2	医療の質の管理 目的と評価		医療の質の管理、評価、可視化、医療行動経済学の視点	
	3	社会保障制度とはなにか		社会保障制度の目的と機能、体系 その財源・財政	
	4	社会保障体制・医療体制として何を選択するか		グループ演習:選択・決定する手法、グループ構成員とのコミュニケーションを学ぶ	
	5	持続可能な社会保障・医療制度に向けて		日本の社会保障制度は持続可能か。医療の質、アクセス、効率性の選択について	
	6	社会保障制度の関連法規と行政		社会保障関連法規、医療法の概要と法改正の経緯とその背景、第8次医療法改正下の経営について	
	7	現代日本の社会保障の課題と解決の方向性		グループ演習:グループ構成員との課題解決に向けての合意形成への取り組み方について学ぶ	
	8	医療保険制度と供給体制		保険とはなにか、保険制度、医療保険診療の概要と留意点	
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

臨床検査学科

授業科目 (科目ID)	英語 I  22m104		担当教員  (実務経験)	三澤 映治  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	病院やメディカル業界で実際に役立つ英語でのコミュニケーション能力を、さまざまな医学専門用語やフレーズを用いて学ぶ。					
到達目標	ことばのマナーとして、英語の敬意表現を用い、相手にとって快適な環境を提供することを述べることができる。					
テキスト・ 参考図書等	・マナーとホスピタリティの英語 I (YUMI PRESS) ・プリント					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	60%	①最高点を100点換算した得点を科目成績全体60%の評価点とする。 ②小テストの点数を科目成績全体20%の評価点とする。 ③プリント提出などを平常点として科目成績全体20%の評価点とする。			
	レポート	%				
	小テスト	20%				
	提出物	%				
	その他	20%				
履修上の 留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業。 ②予習・復習を欠かさず、授業に臨むこと。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題		履修内容		
	1	Unit 1		基本コミュニケーション		
	2	Unit 2		あいさつ		
	3	Unit 3		電話		
	4	Unit 4		案内		
	5	Unit 5		受付		
	6	Unit 6		順番待ち		
	7	Unit 7		紹介		
	8	Unit 8		説明		
	9	Unit 9		クレーム		
	10	Unit 10		栄養指導		
	11	Unit 11		生活指導		
	12	Unit 12		再診		
	13	Unit 13		別れ		
	14	Unit 14		明るい未来		
	15	Summary		Game		

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

臨床検査学科

授業科目 (科目ID)	英語Ⅱ  22m105		担当教員  (実務経験)	三澤 映治  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	臨床検査技師に必要な英文による資料や論文の読解力を高める。					
到達目標	英文による試薬・医療機器などのカタログや解説書および論文の読解ができる。					
テキスト・ 参考図書等	・プリント					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	60%	①最高点を100点換算した得点を科目成績全体60%の評価点とする。 ②小テストの結果を科目成績全体20%の評価点とする。 ③プリント提出などを平常点として科目成績全体20%の評価点とする。			
	レポート	%				
	小テスト	20%				
	提出物	%				
	その他	20%				
履修上の 留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業。 ②前講義の確認テストを毎週実施し、達成度を確認すること。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題		履修内容		
	1	Unit 1		助動詞の使い方		
	2	Unit 2		前置詞の使い方		
	3	Unit 3		後置修飾句を捉える		
	4	Unit 4		形容詞節の理解		
	5	Unit 5		主語を推定する		
	6	Unit 6		いろいろな比較表現		
	7	Unit 7		原因と結果の表現		
	8	Unit 9		「it」の意味		
	9	Unit 11		否定構文の確認		
	10	Unit 12		無生物主語の訳し方		
	11	Unit 13		省略、倒置、同格の使い方		
	12	Unit 14		文のつながりの語句		
	13	Unit 8		仮定法の訳し方		
	14	Unit 10		多様な「as」の訳し方		
	15	まとめ		全体を通してのQ＆A		

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

臨床検査学科

授業科目 (科目ID)	化学  22m106	担当教員  (実務経験)	川村 隆志  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 検査センター生化学検査業務に従事し、当該科目の教育を行う		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	原子、分子の基本から物質の状態、とくに溶液を中心に学び、溶液の濃度、pH、化学反応について理解し、さらには生体を構成する有機化合物とそれらの反応に 関与する酵素についての基本を学ぶことを目的とする。				
到達目標	原子、分子や物質量の概念、溶液の濃度、pH、緩衝液などについて計算ができる。物質の反応および基本的有機化合物の構造、糖質、脂質等について説明 できる。酵素の反応について説明ができる。実験のための基本的操作について説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「化学」(医歯薬出版)				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	①最高点を100点換算した得点を科目成績全体80%の評価点とする。 ②小テストの点数を科目成績全体10%の評価点とする。 ③プリント提出などを平常点として科目成績全体10%の評価点とする。		
	レポート	%			
	小テスト	10%			
	提出物	%			
	その他	10%			
履修上の 留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。②予習・復習を欠かさず、授業に臨むこと。 ②毎回小テストを実施し、その解説から始まることとなるので毎回の授業を大切にすること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	物質の構造	原子、分子の基本、原子量、分子量、モルの概念		
	2	物質の状態①	気体、液体、固体		
	3	物質の状態②	溶液(濃度計算)		
	4	物質の状態③	溶液、コロイド		
	5	物質の変化①	化学反応の種類と分類		
	6	物質の変化②	化学平衡、電離平衡、酸と塩基の定義		
	7	物質の変化③	pHの計算		
	8	物質の変化④	溶液の緩衝作用		
	9	物質の変化⑤	化学反応と反応速度		
	10	無機化合物	元素の分類、非金属、金属、配位化合物		
	11	有機化合物①	有機化合物の構造		
	12	有機化合物②	官能基		
	13	有機化合物③	生体分子成分		
	14	実習のための基礎知識	器具・薬品の取り扱い、溶液の調整		
	15	化学のまとめ	まとめ		

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

臨床検査学科

授業科目 (科目ID)	物理学  22m107		担当教員  (実務経験)	鎌田 到  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 別紙1参照	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	理科系の基礎学問領域として重要な物理学の基本概念を学ぶ。				
到達目標	医療・臨床検査分野に特化した物理現象を説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「物理学」(医歯薬出版) ・プリント				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	①最高点を100点換算した得点を科目成績全体70%の評価点とする。 ②小テストの点数を科目成績全体20%の評価点とする。 ③プリント提出などを平常点として科目成績全体10%の評価点とする。		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	%			
	その他	10%			
履修上の 留意事項	①教科書を理解するための物理の基本を学習する。 ②毎回の演習問題(ミニテスト)を自分で考え解くこと。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題		履修内容	
	1	単位・力のつりあい		MKS単位系、力の種類、力のつりあい	
	2	力と運動①		速度・加速度、運動の法則、自由落下・放物運動	
	3	力と運動②		円運動、振動	
	4	エネルギーと仕事、弾性体の力学		位置エネルギー・運動エネルギー、仕事・仕事率、応力、弾性率	
	5	流体の力学		圧力、気体の法則、パスカルの原理、流体運動	
	6	熱		温度、比熱、熱伝導、熱力学の法則	
	7	音波と超音波、光		音の性質、超音波の性質、光の性質、レンズ	
	8	原子と放射線、直流回路①		放射線の種類と利用、オームの法則、抵抗の直列並列接続	
	9	直流回路②		ブリッジ回路、キルヒホッフの法則、電力、抵抗率	
	10	磁気		磁界の強さ(コイル、ソレノイド)、電磁力、電磁誘導、インダクタンス	
	11	静電気①		クーロンの法則、電界、電位	
	12	静電気②		コンデンサ、コンデンサの接続	
	13	交流回路①		交流の表し方、実効値、RLC単独回路	
	14	交流回路②		ベクトルによるRLC回路	
	15	交流回路③		記号法によるRLC回路	

2023年度

**吉田学園医療歯科専門学校**

**臨床検査学科**

別紙1

[illegible]



2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

臨床検査学科

授業科目 (科目ID)	生物学  22m108	担当教員  (実務経験)	金本 吉泰  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	生命の基本単位である細胞の構造・機能及び受精から形態形成までを学ぶ。				
到達目標	生命の特質を説明できる。細胞内小器官の構造、機能を説明できる。遺伝、発生過程を説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「生物学」第3版(医歯薬出版) ・プリント ・国家試験問題				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	①最高点を100点換算した得点を科目成績全体80%の評価点とする。 ②講義内容をレポートにまとめその内容を科目成績全体10%の評価点とする。 ③プリント提出などを平常点として科目成績全体10%の評価点とする。		
	レポート	10%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	10%			
履修上の 留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業、予習・復習を欠かさず、授業に臨むこと。 ②実習につながる授業内容であることを常に念頭に入れて、授業を受けること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	生命を支える物質	生体を構成する元素、細胞を構成する物質(染色体について)		
	2	生命の単位①	ウイルス、原核細胞、真核細胞(生命誕生)		
	3	生命の単位②	細胞内小器官、マイクロメーターの計測		
	4	ヒトの体の構成と機能①	体の構成と機能、ビタミン類の役割		
	5	ヒトの体の構成と機能②	生体の防御、免疫現象について		
	6	生命活動とエネルギー	酵素、光合成、呼吸、ATP		
	7	細胞の増殖、生殖細胞の形成①	細胞周期、体細胞分裂、ガンについて		
	8	細胞の増殖、生殖細胞の形成②	ヒトの配偶子形成、ヒトの授精、赤ちゃんについて		
	9	遺伝…ヒトを中心に①	メンデルの法則、遺伝情報と形質の発現、血液型の遺伝		
	10	遺伝…ヒトを中心に②	ヒトの染色体と遺伝子、セントラルドグマ		
	11	遺伝…ヒトを中心に③	ヒトの遺伝性疾患、染色体異常		
	12	受精、発生、分化	生殖、受精、発生、分化のしくみ		
	13	ヒトの初期発生	受精卵から個体へ、ウニ・カエルの発生との比較		
	14	ヒトへの進化	進化、ヒトの特徴、サルとヒトがわかれた		
	15	生物と地球環境	生態系と物質の循環、環境保全、エコを考える		

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

臨床検査学科

授業科目 (科目ID)	数学  22m109	担当教員  (実務経験)	菅原 和良  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	臨床検査技師の専門科目を学ぶ際に、数学の知識と計算力が求められる。専門科目に備えて、基本的な数学力を高める。				
到達目標	測定値の処理方法を説明できる。比例関係の計算法ができる。指数法則・対数法則について活用できる。				
テキスト・ 参考図書等	・プリントを配付 ・高校で使用した数学の教科書や参考書があれば、持参				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	①最高点を100点換算した得点を科目成績全体70%の評価点とする。 ②小テストの点数を科目成績全体15%の評価点とする。 ③プリント提出などを平常点として科目成績全体15%の評価点とする。		
	レポート	%			
	小テスト	15%			
	提出物	%			
	その他	15%			
履修上の 留意事項	①板書やプリントを中心に授業を進める。②授業中および課題として計算演習を行う。③学習項目ごとに小テストを実施する。 入学以前の数学の履修状況には個人差がある。これまであまり数学を学習してこなかった学生は、分からないことがあれば積極的に質問し、よく復習すること。小テストの点数が合格点に満たない場合は、課題や再テストに取り組むことが単位取得の条件である。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題		履修内容	
	1	数と式①		数の計算	
	2	数と式②		数の計算	
	3	数と式③		数の計算	
	4	数と式④		数の計算	
	5	数と式⑤		数の計算	
	6	有効数字		有効数字の計算	
	7	比例関係		比例関係の演習	
	8	データの分析		データの分析、統計学の基礎	
	9	指数①		指数法則、累乗根の計算	
	10	指数②		指数関数	
	11	指数③		指数関数の性質、大小関係	
	12	指数④		対数方程式、指数不等式	
	13	対数①		対数の性質、対数計算	
	14	対数②		対数関数とその性質、対数方程式、対数不等式	
	15	対数③		常用対数の応用、 対数計算の演習	

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

臨床検査学科

授業科目 (科目ID)	解剖学  22m110	担当教員  (実務経験)	藤田 昌宏  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 検査センター病理検査業務に従事し、 当該科目の教育を行う		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	3単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	23	時間数	46時間
授業目的	人体の構造と機能を学ぶ。人体を構成する各部位の器官・組織構造を系統別に学ぶ。				
到達目標	人体の器官・組織構造の相互関係を説明できる。解剖学用語を部位と役割と共に説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「解剖学」(医歯薬出版) ・プリント				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	①最高点を100点換算した得点を科目成績全体80%の評価点とする。 ②レポートの得点を科目成績全体10%の評価点とする。 ③小テストの得点を科目成績全体10%の評価点とする。		
	レポート	10%			
	小テスト	10%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②人体の基本的な構造を知るための最も基本的な学問として学ぶ。 ③予習・復習を心がけること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	人体の基本的構造	解剖学とは		
	2	細胞の構造と組織の種類	細胞、組織の種類		
	3	発生の概要	ヒトの発生		
	4	骨格系①	骨格の総論と各論		
	5	骨格系②	骨格の各論		
	6	筋系①	筋の総論と各論		
	7	筋系②	筋の各論		
	8	循環器系①	動脈系		
	9	循環器系②	静脈系		
	10	循環器系③	リンパ系		
	11	呼吸器系	呼吸器の各論		
	12	消化器系①	消化器の総論と各論		
	13	消化器系②	消化器の各論		
	14	消化器系③	消化器の各論		
	15	内分泌系①	内分泌器の各論		

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	16	内分泌系②	内分泌器の各論
	17	生殖器系	男性・女性生殖器
	18	泌尿器系①	腎臓
	19	泌尿器系②	その他の泌尿器系
	20	神経系①	中枢神経系
	21	神経系②	末梢神経系
	22	感覚器系①	感覚器の各論
	23	感覚器系②	感覚器の各論

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

臨床検査学科

授業科目 (科目ID)	基礎生化学  22m111	担当教員  (実務経験)	福士 勝  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 検査センター生化学検査業務に従事し、 当該科目の教育を行う		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	8	時間数	16時間
授業目的	細胞機能と生体を構成する基本的物質である、糖質、脂質、蛋白質、核酸、酵素について学ぶ。				
到達目標	生命の最小単位の細胞の細胞小器官のそれぞれの機能が説明できる。生体の基本的物質の構造が説明できる。生体の基本的物質の機能が説明できる。酵素の機能と反応性について説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「生化学」(医歯薬出版)				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	①最高点を100点換算した得点を科目成績全体80%の評価点とする。 ②小テストの点数を科目成績全体10%の評価点とする。 ③プリント提出などを平常点として科目成績全体10%の評価点とする。		
	レポート	%			
	小テスト	10%			
	提出物	%			
	その他	10%			
履修上の 留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②予習・復習を欠かさず、授業に臨むこと。 ③実習につながる授業内容であることを常に念頭に入れて、授業を受けること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	総論:生命現象と生化学	生体構成成分:細胞の構成と働き		
	2	糖質	糖の定義:分類と性質、糖の誘導体、多糖。糖脂質/糖タンパク質		
	3	脂質	脂質の定義:分類と性質、脂肪酸、中性脂肪、リン脂質、ステロイド		
	4	タンパク質①	アミノ酸の構造と性質		
	5	タンパク質②	タンパク質の分類、タンパク質の分離精製		
	6	ヌクレオチドと核酸	ヌクレオチド:構造と性質、核酸の構造		
	7	酵素①	酵素の一般的性質、分類と命名法		
	8	酵素②	酵素反応速度論、酵素反応の阻害と活性調節		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				